



朝日と夕日を追いかけて 日本を旅する

岡村博文の世界
Part25 四国のお城を巡る旅①
丸亀城・讃岐うどん・大歩危小歩危・祖谷溪編

四国の旅行ガイドを見ると「お城」が頻繁に取り上げられるようになった。「日本の100名城」はよく聞か、その中でも江戸時代から現存している天守閣が残っているのは12城しかないという。そのうちの4つが四国にあるのだ。朝日夕日を追いかけるカメラマンとしては気になる数字だ……。

丸亀城が朝日を浴びる。丸亀城は「石の城」で石垣の名城として全国的に有名。石垣に鑑える天守閣に朝日が絡む絵が欲しくて、薄暗いうちから周囲を歩いたが、太陽と天守閣は重ならなかった。内堀の水面と城内の木々が少し朝日に染まったところで納得しよう

**時代とともに
観光コースが変わる
四国4県の異なる魅力を
再確認する**

ゴールデンウィークにどこへ行くか、と書斎の本棚を見ていると、高校生時代に出かけたときの参考資料、1973年発行の四国編ガイドブック、ジムニーで林道巡りをしてきたころの、1993年発行の旅行ガイド誌が目にとまった。そして、最近買った旅本と比べてみると、時代とともに食べ物や観光情報の内容が異なっていることに興味を覚えた。

1973年版では「四国1周コース、モデルコース・四国Vライン」という特集で、交通機関の案内や旅館や見どころが紹介されている。

1993年版では、「おもしろin四国・もっと四国で遊びたい」という見出しで、いかに遊ぶかという楽しみ方が強調されている。

2011年になるとテレビドラマの「龍馬伝」や「坂の上の雲」などが放映され、幕末から明治維新の高知や松山などの歴史遺産が大きく取り上げられていた。

そして、最新版になると「城」が詳細に説明されている記事が目立つようになった。日本城郭協会主催による、日本100名城スタンプラリーが話題となっているが、そのなかでも江戸時代から現存する天守閣が残っているのは12城しかなく、そのうち4つが四国にあるという。ぜひ見てみたいと思ひ、四国の4つの城を攻め落とす(天守閣に登る)ことにした。第1弾は香川県高松市にある朝日絡みの丸亀城だ。

**丸亀城は「石の城」
として全国でも有名。
反り返る曲線美は、
まさに石の芸術品**

四国へは43年前から何度も行っているが、当時はフェリーで渡る遠い島国という印象だった。現在は橋が繋がっていて、自宅のある広島県からは、大阪や京都へ行くよりも断然、近い。

いつものごとく、仕事を終えて自宅を20時過ぎに出た。山陽自動車道から瀬戸中央自動車道(瀬戸大橋)を渡り、与島PAで車中泊しようとしたが、ゴールデンウィーク中で駐車場に向かうレーン

が渋滞。仕方なく四国に渡り、道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」で仮眠をした。

丸亀城には5時前に到着。カメラ1台を提げて城内を歩く。5時半には空も明るくなり朝日が昇る時間が迫っていた。お城の周囲が思ったより広く、天守閣に太陽を絡ませることはできなかった。太

2016年から「旅の友」となったスベシアカステタム。車中泊をする「宿」でもある。いつか旅仕様にした、車内のプチカステタムを紹介したい



「讃岐うどん」は弘法大師が唐の国で学んだ製法を、讃岐に伝授したことが起源だとか!? 2010年に1日中食べ歩いたが、おいしく食べられるのは4杯が限度だった。写真は「やまうちうどん」「わら家」「大円」「山下うどん」



●筆者紹介
岡村博文 おかむらひろふみ



1957年生まれ。広島県在住。高校時代から、徒歩・自転車・バイク・電車・クルマを使い、沖縄を除く日本を1周。2001年より「朝日と夕日の撮影旅」をスタートし、6万kmを走り2010年で終了。現在は3周目に挑戦中で、撮影のために全国を巡る。四駆専門誌のレポーター兼カメラマン。地元ケーブルTVで「太陽を追いかける旅」をスライドにて放映中



大手の門より見える方向と同じ、二の丸より見上げた天守閣。「搦手口」(からめてぐち)の石垣には、打ち込みハギヤ切り込みハギなどの石積みが見られる



内堀の北側中央部に位置する、大手二の門と大手一の門。真正面の石垣の上に天守閣が見える



丸亀城天守は3層3階で現存する木造天守。高さは15m。唐破風や千鳥破風で意匠を凝らしている



三の丸北側の石垣は、丸亀城で最も高く、29m以上ある。隅角部の石垣は算木積みされた美しい曲線美で、「扇の勾配」と呼ばれている。右側の「見返り坂」は傾斜が急で、時々立ち止まって振り返りたくなることから、そう呼ばれる



天守閣内部。天守閣は全国に現存する木造天守12城のひとつで、国の重要文化財。四国で最も古く、1660年に完成したという



本丸の南側の「搦手口(からめてぐち)」で、城内でも一番堅固につくられた場所が見られる。下から石垣を見るこの景色は、感無量だった。私はこの部分が丸亀城で一番気に入った